

「第2次平戸市総合計画策定に向けたワークショップ」

みんなで語ろう！
平戸のまちづくり
実施報告書



平成 29 年8月

長崎県 平戸市

目 次

1	ワークショップの総括	1
	（1）全体総括	2
	（2）平戸北部地区	2
	（3）平戸中部地区	2
	（4）平戸南部地区	3
	（5）生月地区	3
	（6）田平地区	3
	（7）大島地区	4
	（8）度島地区	4
2	ワークショップの概要	5
	（1）ワークショップの目的	6
	（2）ワークショップのテーマ	6
	（3）ワークショップのスケジュール	7
3	ワークショップの手法	9
	（1）ワークショップとは	10
	（2）「ワールド・カフェ」とは	10
	（3）特徴	10
	（4）手順	10
4	ワークショップ内容のまとめ【第1回】	13
	（1）オリエンテーション	14
	（2）グループに分かれて「語り合う」	14
	（3）“コレ必要カード”の作成	14
	（4）“コレ必要カード”の内容	15
5	ワークショップ内容のまとめ【第2回(まちづくり計画未策定地区)】	41
	（1）オリエンテーション	42
	（2）グループに分かれて「語り合う」	42
	（3）“平戸プロジェクトシート”の作成	42
	（4）“平戸プロジェクトシート”の内容	43

1 ワークショップの総括



(1)全体総括

市内7地域のワークショップを通して、地域コミュニティ、人と人のつながりについての意見が多く見られました。

具体的には、地域を引っ張っていくリーダーの必要性、地元の宝を知り誇りを持つこと、住民一人ひとりの意識改革等が挙げられています。

基本構想骨子案においても、「未来へのチャレンジ」として、「みんなで手を取り合い、にぎわいをつくり、誇りを持てるまち」を目指そうということと言及するとともに、地域の宝を知り、磨き、輝かせることが地域の魅力を高めていくということを謳い、「人を磨く」ことについて言及しています。

市内全ての地域で「まちづくり計画」が策定されつつある中、総合計画においても地域コミュニティの重要性を明記し、今後の取り組みにつなげる必要があります。

(2)平戸北部地区

市内でも観光資源が多い平戸北部地区では、ワークショップでも観光に関連することについての語り合いが多く行われ、おもてなし力の向上や多様化する観光ニーズへの対応等についての意見が見られました。地域づくりプロジェクトの主な取り組みでも「おもてなし力」について挙げており、官民一体となった取組みが必要であると考えます。

またプロジェクトシートでは、2回目ワークショップで若年層の参加者が多かったこともあり、子育て・教育環境の充実が挙げられており、総合計画への反映等について十分な協議が必要です。

(3)平戸中部地区

産業・雇用に関する語り合いが多く、特に農業関係についてブランド化の確立や後継者についての意見が多くありました。

現在、市では第一次産業の担い手育成や平戸ブランドの確立に関する事業を展開していますが、さらなる成果を求められており、事業の継続拡大について基本計画策定時でも議論していく必要があります。

プロジェクトシートにおいても農業関係が多くある中、子どもからお年寄りまで、幅広く地域住民の方々交流できる場がほしいとの意見も見られました。

(4)平戸南部地区

平戸南部地区では、これまで「奥平戸観光」あるいは「体験型観光」で誘客を図ってきているところですが、ワークショップにおいても観光に関する意見があり、自然を活かした取り組みについて多くの意見交換がありました。

地元の宝を知り、活かすということは基本構想骨子案においても謳われる中、まさに地域住民が「地元の誇り」として情報発信し、魅力を知ってもらい取り組みが必要であると感じました。

また、高齢者が増加している中での交通手段の確保、企業誘致等による雇用の場の確保についての意見がありました。市ではふれあいバス運行や創業・中小企業支援を行っている中、事業内容等について協議することが必要であると考えます。

(5)生月地区

生月地区では産業・雇用に関する意見が多く、働く場が少ないことによる雇用の場の確保についての語り合いが多く見られました。参加者の中には、家族や友人で帰ってきたい人がいるが働く場所がないという人もおられ、このこと等により若者が地域に残らないという危機感が現れていました。市では、第一次産業の担い手育成や創業支援に関する支援を行っていますが、もっと使いやすい制度にしてもらいたいという意見もあり、今後の検討課題であります。

漁業を主とする第一次産業の活性化や担い手育成についても意見があり、また第一次産業の現場を町のPRに使えないか等について語り合いが行われていましたが、今後のシティプロモーションに関する取り組みにもつながる意見ではないかと考えました。

(6)田平地区

田平地区においても産業・雇用に関する意見が多くありましたが、平戸島の玄関口という位置的条件と、西九州自動車道による交通インフラ整備を活かした振興策についての意見がありました。地域づくりプロジェクトにおいても、西九州自動車道を契機としたまちづくり推進を謳っており、これらを生かして今後どのような施策を行うべきかを考えていく必要があります。

また、「まちづくり計画」が今年策定されたばかりであり、この計画に沿ってまちづくりを進めていこうという話も出ており、総合計画においても整合性を取りながら施策を盛り込んでいかななくてはいけないと考えます。

(7)大島地区

離島である大島地区においては、雇用の場の確保のほか高齢者の移動手段の確保、救急医療体制の充実等について多くの意見があり、タクシーや救急船を求める声が聞かれました。人口減少と高齢単身世帯の増加により、連絡・見守り体制についても課題として挙げられており、どのようにすれば地域の方々が安全・安心の中で生活できるのかということを考えなければなりません。空き家も増加しており、その活用等の検討も課題の一つです。

観光面については、食事場所が少ない等の意見がありました。いずれの課題も行政だけでは解決できるものではなく、官民で知恵を出し合い対策していく必要があります。

(8)度島地区

度島地区においては、主に島外の方々が来たときの食事の場所や、交通手段である船舶の確保についての意見が出ています。離島として交通手段の確保は必須であり、市としてどのようなことができるか検討する必要があります。

また、全般的な行政サービスの充実についての意見交換もあり、他地域と遜色が無い形でのサービス提供を求める声がありました。

地域の声を市政等に届け、課題解決につなげたいという思いもあり、通常においても意見交換の場を作る必要性もあるのではないかと考えます。

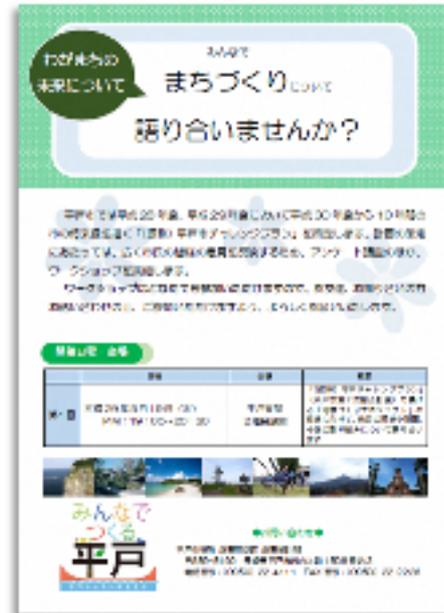
2 ワークショップの概要



(1)ワークショップの目的

平戸市では平成 28 年度、平成 29 年度において平成 30 年度から 10 年間の市の将来像を描く「(仮称)平戸市チャレンジプラン」を策定します。計画の策定にあたっては、広く市民の皆様の見解を反映するため、アンケート調査のほか、未来の平戸市をみんなで語る「ワールド・カフェ方式」によるワークショップを実施しました。

今回、総合計画の策定過程自体をPRすることにより、まちの魅力・取り組みを内外に発信する「シティプロモーション」の視点、人の持つ「創造」の力で地域が抱える複雑な課題の解決に挑む「ソーシャルデザイン」の活動をふまえたワークショップを行いました。



(2)ワークショップのテーマ

**みんなで語ろう！
平戸のまちづくり**

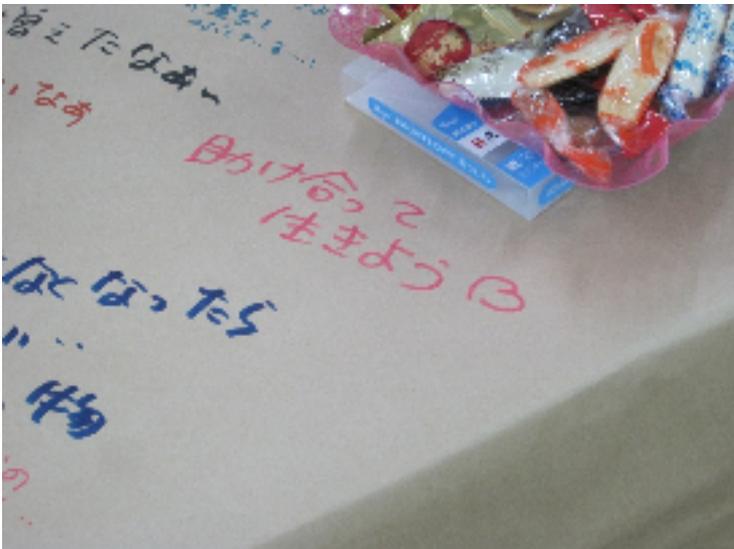
【テーマ設定の根拠】

総合計画の策定を、住民との協働によるまちづくりを進める機会として、「みんなで語ろう！平戸のまちづくり」をテーマにワークショップを実施しました。

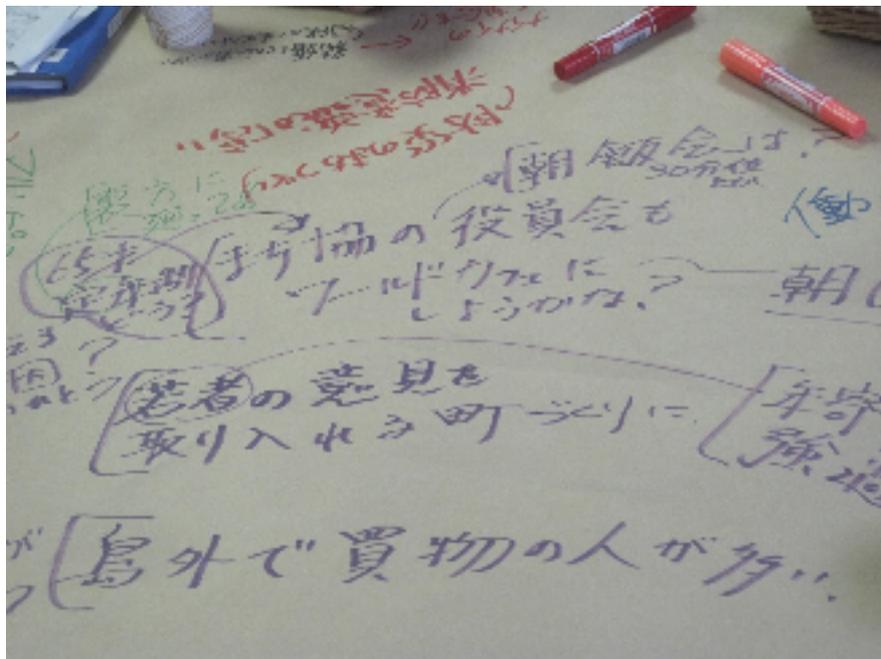
(3)ワークショップのスケジュール

■ワークショップの内容及び開催スケジュール

	開催日時	開催地区	テーマ(内容)	参加者数
第1回	5月19日(金) 19:00~18:30	生月地区 (生月支所)	「生月地区 みんなで語ろう!平戸のまちづくり」 (生月地区のまちづくりで必要なこと)	38
第2回	5月23日(火) 19:00~18:30	大島地区 (大島村公民館)	「大島地区 みんなで語ろう!平戸のまちづくり」 (大島地区のまちづくりで必要なこと)	28
第3回	5月25日(木) 19:00~18:30	平戸中部地区 (ふれあいセンター)	「平戸中部地区 みんなで語ろう!平戸のまちづくり」 (平戸中部地区のまちづくりで必要なこと)	25
第4回	5月29日(月) 19:00~18:30	平戸北部地区 (未来創造館)	「平戸北部地区 みんなで語ろう!平戸のまちづくり」 (平戸北部地区のまちづくりで必要なこと)	13
第5回	6月2日(金) 19:00~18:30	平戸南部地区 (多目的研修センター)	「平戸南部地区 みんなで語ろう!平戸のまちづくり」 (平戸南部地区のまちづくりで必要なこと)	24
第6回	6月9日(金) 19:00~18:30	平戸中部地区 (ふれあいセンター)	第2回 「平戸中部地区 みんなで語ろう!平戸のまちづくり」 (平戸中部地区取り組んでみたいこと)	10
第7回	6月12日(月) 19:00~18:30	平戸北部地区 (未来創造館)	第2回 「平戸北部地区 みんなで語ろう!平戸のまちづくり」 (平戸北部地区取り組んでみたいこと)	28
第8回	6月16日(金) 19:00~18:30	平戸南部地区 (多目的研修センター)	第2回 「平戸南部地区 みんなで語ろう!平戸のまちづくり」 (平戸南部地区取り組んでみたいこと)	18
第9回	6月20日(火) 19:00~18:30	度島地区 (度島浦公民館)	「度島地区 みんなで語ろう!平戸のまちづくり」 (度島地区のまちづくりで必要なこと)	23
第10回	6月23日(金) 19:00~18:30	田平地区 (田平町民センター)	「田平地区 みんなで語ろう!平戸のまちづくり」 (田平地区のまちづくりで必要なこと)	27
合計				234



3 ワークショップの手法



(1) ワークショップとは

ワークショップとは、先生や講師から一方的に話を聞くのではなく、参加者が主体的に論議に参加したり、言葉だけでなくからだや場所を使って体験したり、相互に刺激し合い学び合う、グループによる学びと創造の方法です。

今回は「ワールド・カフェ方式」という手法で実施しました。

(2) 「ワールド・カフェ」とは

「知識や知恵は、管理されがちな会議室で生まれるのではなく、人々がオープンに会話を行い、自由にネットワークを築くことのできる“カフェのような空間”でこそ創発される」という考え方に基づいた、話し合いの方法の一種です。



(3) 特徴

- ・ アイディア出しをする際に効果的な手法です。
- ・ 年齢や職業にとらわれない参加者同士の自由な対話を行えます。
- ・ 本物のカフェのようにリラックスした雰囲気の中で、テーマに集中した対話が可能です。
- ・ 自分の意見を否定されず、尊重されるという安全な場で、相手の意見を聞き、つながりを意識しながら自分の意見を伝えることにより生まれる「場の一体感」を味わえます。
- ・ 最終的に一つの結論を出す収束型ではないため、決め事をするときには不向きです。

(4) 手順

ワールド・カフェの基本手順は次の通りです。

①はじめに座った席での話しあい【第1ラウンド】

4～5人で1つのテーブルに着席し、出されたテーマについて自由に話し合います。その過程では、テーブルに敷いてある模造紙に自由にメモを書き込んでいきます。



②テーブルにつき1名を残して別々に移動

時間がきたら第1ラウンド終了です。1名だけ“テーブルホスト”として、テーブルに残ってもらいます。他の方は“旅人”として、別々のテーブルへ移動します。



③次に座った席での話しあい【第2ラウンド】

続いて、新たに集まったメンバーで4～5人で1つのテーブルに着席し、出されたテーマについて自由に話し合います。

初めにテーブルホストより、そのテーブルで行われた話し合いの概要を説明し、それぞれ新たに集まったメンバーからは各テーブルで出た内容を簡単に説明します。

第1ラウンドと同様に、その過程では、テーブルに敷いてある模造紙に自由にメモを書き込んでいきます。



④最初に座った席での話し合い【第3ラウンド】

最初に座った席でテーマに基づいて、ラウンド1、ラウンド2で得られた発見や気づきを共有し、話し合いを深めます。

⑤「まとめ」のカードやシートに重要なことを記入する

みんなと語り合う中で、「平戸のまちづくりでコレ、必要。」「やってみたい、取り組んでみたい」ということをわかりやすく、イラストや印象に残る文字でカードやシートに書いてまとめます。

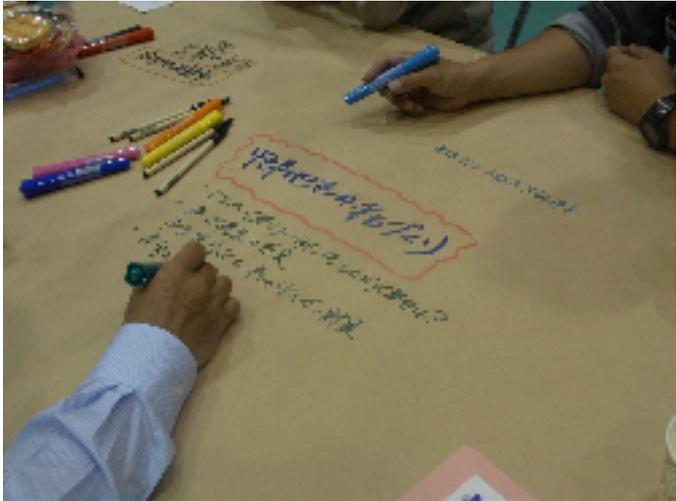


⑥ワールド・カフェでの振り返り

○ギャラリーウォーク

書き込んだカードやシートを会場の机の中央に集めたり、並べたりするなど、他のテーブルでどのような話し合いが行われたかをみんなで眺めます。





4 ワークショップ内容のまとめ

【第1回】



(1)オリエンテーション

最初に参加者の皆さんにワークショップ実施について、目的や趣旨の共有を図るとともに、ワールド・カフェの方法について、説明を行いました。



(2)グループに分かれて「語り合う」

グループに分かれ、「地域ごとの課題やまちづくりで必要なこと」について、みんなで“語り合い”ました。



(3)“コレ必要カード”の作成

語り合った意見は「まちづくり計画でコレ、必要。」カードに記入していただき、みんなで共有しました。

「まちづくり計画でコレ、必要。」カードとは、「地域ごとの課題やまちづくりで必要なこと」について、一人ひとりが思いつくままに、自由に意見を書くことができるカードです。



(4)“コレ必要カード”の内容

■平戸北部地区

【地域コミュニティ】

コレ、必要。	説明
「自信」が大事。現状を見て、受け入れて、それでニーズに合ったことをやっていければ良い！	キレイゴトを言っても、生きていく上で経済活動は必須！お金を稼ぐためには、勉強し、ニーズに合ったことをしなくてはいけないし、その為にも、自分達自身が誇りを持つことが大事と思う！！
平戸の良さに自信を持つこと。色々と良い点が見えてきて、前向きな発想ができる。	あれがない、これがないと悪い点を見るのではなく、良い点に変えることがあるかな？
区長を全員 20 歳代に	若手の総力で地域づくりができると思います。
豊かな顔	周りの人が豊かな顔でいることが、幸せにできる。平戸を好きになれる。
ここに生活しているという誇り・喜び感	ものを知っているだけではなく、できることを実行する。明るく生きる姿が大切。
志の豊かさ(多様性)	自分だけの利益を求めず、地域を見ていくこと。

【産業、雇用】

コレ、必要。	説明
農業	仕事が無いなか、農業は広がる可能性がある。(農地が余っているから)
おいしい食事	おいしい食事があれば、また来たくなる。

【子育て、教育】

コレ、必要。	説明
ひとづくり	料理が上手な人。もてなしの心を持った人などを育てることが大事！！
産婦人科	子どもを安心して産める、育てることができる環境を整えないといけない。子どもを核にした地域づくりを！
学ぶ姿勢	市民が、まずまちづくりを学んで、動くことが大切。(現状を知る。危機感を持つ。宝を知る。動く。)

【定住・移住、自然環境、生活基盤】

コレ、必要。	説明
環境整備！！	観光客が訪れても美しい平戸を見てもらう為。

【観光、文化、シティプロモーション】

コレ、必要。	説明
質の高い宿及び食事処	高齢化に対応できる家族層を対象としたホテルや食事(食材)を提供し、リピーターを増やす。
観光	観光に力を入れてもっとお客様を呼べる様にする。それには、お客様のニーズに合ったホテルも必要となる。最近では、宿泊されるお客様が少ないので夕方から夜にかけての催しをして、宿泊者が増える様にする。 「平戸」をPRできるものにしないと無理かもしれない。世界遺産になったとしても、昼と夜と両方から見れるような工夫が必要かも？
観光客	外からのお客様が来ることにより、あらゆる分野にお金が落ちていくから。海外からの観光客もいいと思う。
観光地としての自覚	お客さんが来る観光地としての自覚を持ち、少しずつの心づかい、気配りが必要である。
川内港に大型船が寄港できるように整備	強風時に大型船が川内湾に停泊しており、港湾を整備し、客船が(海外含めて)寄港し、観光客の誘致を行う。

世界遺産の動きと連動した交流取組(観光)	時期的な事もあるが、世界に発信できるチャンスにたくさんの交流によって生まれる展開がたくさんあると思うから！
観光でしょう	北部地区(中野、川内以北)には観光スポットが点在しているので、点と点を結ぶ道すがら、移動中も観光(Sightseeing)できればなと思います。

■ 平戸中部地区

【地域コミュニティ】

コレ、必要。	説明
中部地区の郷土歴史のマップを作り宣伝する	
中部地区で農産物のブランド商品を作り販売する	外の地区に無いような農産物の考案をする。
中部地区のブランド品を作る 人が集まるような場所を作る(例)公園	
手づくりマップを作る(学生と共同で)	中・高生の部活の一環として、ボランティアガイドにもつなげていく。地域を知ることにもなる。
人の集まる場所が必要	
みんな集まる場 楽しく	
人間関係の保持 明るく笑顔であいさつ 人づくりがないとまちづくりはない	隣近所でも挨拶が少なくなった。コミュニケーションが欠如しているように思える。助け合い互助が少なくなった。
【地域コミュニティの構築】 ・一人暮らしが増える ・買物難民が増える ・地域の維持が困難になる	高齢者が増える ↓ 生きがい対策 ↓ 宅老所、シェアハウス(よりどころ) ↓ 生き生きサロン、グランドゴルフなど
地域(中部)の活性化を	地域の歴史を認識する中で若者の減少不足であることから若本定着をするべきと考える。その為には農業等の1次産業の充実等の取り組みが必要である。

中部地区生産組合を結成しサラリーマン、給料制にして生活の安定をはかる。	農地、山林の利用 若者の定着 郷土を守る
地域がにぎわうイベントの開催 第1次産業の振興 (後継者が残る、人も増える)	人との交流が少なくなってきたから 中部地区の主たる産業であるから後継者が残れば人も増える
中部地区マップを作成する。	学生の活動と結びつける。

【産業、雇用】

コレ、必要。	説明
耕作放棄地の解消	老人の町になる。土地が荒れる。協働作業を図る。
農地の活用	
地元農産物水産のブランド化	
第一次産業の振興	農漁業の発展により後継者も生まれ、人口減少にも役立ち経済力も増すと思われる。地域活性化も可能。
道の駅	レストランが入った道の駅。
若者の働く場所。後継者の育成	高齢者の集合場所。中部地区でのイベント行事。
道の駅	地元の生産を売りだして後継者を残す。
第1次産業の見直し(農業、林業の活用) 農家レストラン 若者が帰ってこれる体制支援	農業、林業を新しい視点から見直す事により新しい産業が生まれる。平戸市中部には企業は来ない。
農業を元気に	・地元農産物のブランド化 ・農業の企業化
おいしいレストラン+道の駅(地元の食材を使用)	野菜、魚、牛肉、フルーツなどを使ったおいしい物があれば、遠くからでもやってくる(雇用もうまれる)。
◎まずは、自分が動く事(行動) ○仕事場の確保	他人まかせにしない
一次産業の見なおし 販路開拓 グループ化 研究心の高揚	テレビでもよく見られるが、宣伝力を増して活力を。理想より、現実の見なおしが大切ではないでしょうか。

安定した職場	安定した職場が有る事によって、若者が定住して、活気が良くなる。
若い世代の雇用確保 ↓ 地域の活性化	
子どもたちが帰ってくる 帰れる平戸にする！！	一次産業をもっと魅力あるものにするため。ブランド化に力を入れる(アスパラ、しいたけ、フルーツ、平戸牛、イチゴ)。

【子育て、教育】

コレ、必要。	説明
各地区の公会堂、公民館を毎日オープンにし誰でも集まりやすい場所として提供する	学童、老人、誰でも OK。好きな時、好きなことをして過ごせる場所。
子育てしやすい”まち“	乳幼児とその保護者が簡単に集える場所の提供(公園等)。
子供がふえる町づくりが	人口が増えなければ何も始まらない。

【保健、医療、福祉】

コレ、必要。	説明
老人福祉施設の誘致	・若者の雇用 ・年寄りの増
高齢者の生きがい対策	気軽に集える場所づくり
高齢者の集まる場所	高齢者が生きがいができる。

【定住・移住、自然環境、生活基盤】

コレ、必要。	説明
若者が住みたくなる町にする	企業の誘致。農林業を生かした町づくり(生産者団体の集合体を作る)。
「空き家の活用」一家賃は限りなくゼロ	若い夫婦に無料で貸す。地区はなし。奉仕作業は協力してもらう。家がいたまない。若い芽が出てくる。
人口増加。若い人に多く住んでもらおう！高層住宅	たくさんの人が集合できる。子どもたちにぎわい楽しい町づくり。新しい古い統合性がある。
公園をつくろう	散歩、ダム付近、国道並。
家族で遊べる場所	家族で楽しめる場所があると、人々が集まって来る。

【観光、文化、シティプロモーション】

コレ、必要。	説明
オートキャンプ場 人津久・根獅子の浜	平戸の温泉を使ったりして、絶景を見ながらキャンプする。 地元の野菜や魚が売れる。
やはり人口減対策 〈観光資源を再度見つめる〉 仕事をどうつくっていくか。 とにかく人を増やす。	なし

【その他】

コレ、必要。	説明
採算性があるか	

■平戸南部地区

【協働、地域コミュニティ、シビックプライド】

コレ、必要。	説明
その地区の行事には町民こぞって参加をし、活性化をめざして頑張っていきたいものです。	何事も協力なしでは進めません。せつかくのお宝を大切にしていきたいものです。
皆様の協力!!	何をするにも、協力がなければできません!!
住民が何か一つでも他人の為に動く事が大事だと思います。	～会があるとだいたい同じ顔ぶれなので広ーく大きな輪になった方が横のつながりで無駄をはぶき必要な物を残していく…。
行動力	人の目を気にして動けない。もっと前に進んで欲しい。
皆さんの意識の向上	まちづくりを考える会でこの人数では…。一人一人の意識を上げなくては…。
まちづくり…とは	
リーダーシップ	

【産業、雇用】

コレ、必要。	説明
働く人の増員、商工会＋女性(70代80代パワー大)南部は優しい。	少ない人数ではイベントが開きにくい→人が集まらない寄附(個人)も募ったら良い。
働く場所	
グルメでここに行ったら間違いないというお店。	
産業	
南部地区の特産品を作って販売したい!	
美味しい食事が出来る場所があれば、観光客も増えるのじゃないかと思う。せつかくの美味しい南部地区の食材を活かしてほしい!	

航路	南部地区で 20 万都市に一番近い交通手段外貨獲得！！
若い人の仕事。平戸の生産物のブランド化(農、漁業)	
地場産を生かした産地作り	
若い人が残れる為の働く場	

【子育て、教育】

コレ、必要。	説明
南部で定期的に映画上映開催しましょう。コンサートもしよう(子供向け)	子供たちに観せよう。子供たちに聴かせて情緒豊かな子供を。
子供たちの通学の足の確保	バス・車などがないと通えないのに、不便だし、お金もけっこうかかります。義務教育は皆平等であるべきなのに、ここですでに不平等だと考えます。

【保健、医療、福祉】

コレ、必要。	説明
交通の便をよくしてもらいたい。会なども中南部でも行ってもらいたい。	高齢者の住み良い町であってほしい。平戸の市内中心だと行きたくても行けない人が多いと思う。
行動したくても高齢者には足がない	もっと視野を広げて楽しみを多く！
病院・買い物等々シャトルバスが必要!!	免許もない。若い人達にお願い出来ない困っている。老人が多い。

【定住・移住、自然環境、生活基盤】

コレ、必要。	説明
空き家入居者募集 市のサポートで！！	年々空き家は増加！！人口増加は見込めない状況じゃないか。
5月～6月に道路沿線の草木の処理を南部の方まで延ばして!!	車で走っていてもうっそうとしている。
公共施設の整備が必要	中部ふれあい会館、コラス平戸など、放課後勉強したり親を待つ施設があるが南部にはないので。病院までも遠い。老人の数はかわらない。
多目的ホールの整備をもっとしてほしい。特に駐車場の水はけを早くお願いしたい※雨の日は利用出来ない	特に避難所になっているが、降りて行けない状態である。
公園！お花畑！果樹園！	お年寄りも子供も皆が集まりお話する場所があると認知症も減ると思う!!
出ていかない事	

【観光、文化、シティプロモーション】

コレ、必要。	説明
観光客誘致。	特に外国人、平戸はイギリス・オランダ商館等があったところ。自然(地元)を堪能させる。南部地区にお金を消費させる。
穴場的観光スポットの発掘・開発	(例)菜の花ウォークの泊付き拡大。
WiFi 光	
街並景観の補助金南部にも！！	
インターネット光!!田舎こそはよせんといかんと思います。	
集客	イベント等で、地元に来てもらって良さを再発見してもらおう。
外からの観光客を呼ぶために交通の便を良くしたり安く利用できるようにして欲しい。	現在客船の料金が高く利用者が少ないのが残念

いたる所に WiFi	とくに市役所や公民館にはいるでしょう
トレッキングコース	
北部の人が南部に来ること	きっと一度も来たことない人が多いと思います。野子ってどこ？志々伎ってどこ？とよく言われます。皆が南部方面に来るような施設・イベントなどがあるといいかもです。
WiFi&電動力の緊急充電	
自然を生かした観光地作り	

【行財政運営】

コレ、必要。	説明
資金	

【その他】

コレ、必要。	説明
宝探し等の話し合いがあり宝がでてきたら、それを公表できる場があるのは大事ではないかと思う。	まずは話し合いの場が必要だと思うが、皆さんが出席してみようと思うような誘い方が大事だと思います。
活気	
趣味	うわさ話ばかりの地域なので、外に目を向けましょう。

■ 生月地区

【地域コミュニティ】

コレ、必要。	説明
地域の誇りを取り戻そう	我々はなぜこの地に住んでいるのか？胸を張って言えるポイントがあるはず！消去法で「ここしかなかったから・・・」では悲しすぎる。自分の意志で住んでいる、自分ごととして自問しよう。
老若男女が集って、大いに笑い楽しめる場づくり 特に、老人男性が笑い合えるもの	私自身(男性)、老人になって無口になって、認知症になるかも。地域の人々と気軽に付き合える町づくりを期待したい。
若者の地域への思いが弱いと思われる 地域行事への参加を願う	年寄りが強いのか 若者が弱いのか。消極的である
親が「この町は素晴らしい」と子供に言い続ける。	「船に乗らんでよか」と子供に言ったツケが今の生月の現状
平戸や田平等で活動している若者たちとの交流の時間	平戸・田平・生月と単体ではなく、地域間交流を活動的に行うことで平戸市全体を盛り上げて行くことが必要！！
・人口減少は確実。減る事をまずは認めてから、「ではどうするか？」の視点 ・まちづくりについての民間による団体 ・生月にいながら仕事を作れる→クラウドソーシングを可能にする	町民もやる気のある人はいるけれど、本業がありながらの活動になるので中途半端。専業で取り組める人がいる。
地元民が地元の良さ、素晴らしさを学ぶ機会を得ること	知られざる先人達の暮らし、知恵を学び、この地に暮らす意味×誇りを確認し、守るべき文化は守り、史跡は残し、伝統は世代間交流を行いながら継承しつつ、次代のリーダーになる人材も育成する。地元の歴史・文化を学ぶことは自らを知ることにつながり。故郷のために働き、いずれは島を離れても島へ戻って来てくれるのでは？ とにかく学ぶことは最重要課題だと思います。
若い世代、子育て世代から出てくるアイデアややりたい事を実現に向けて協力してくれる機関。また、各団体のはしご役の機関。	何かやりたい事、してみたい事があっても「そがんとムリよ」「たいへんぞー！！」と年配の方から言われ、若者のやる気がそがれてきた。「いいネ！！やってみよう！」と背中を押してくれる機関があれば、若い人たちが活気づいてくるのでは？
まちづくり協議会の運営を若者、壮年、老人一緒になって計画する	人口減少、少子高齢化は急速に進行している。年代に関係なく、全員で策定していく。

町住民が自分達の住んでいる町のよさを伝えられない(私もよくわかってません)。温泉はありますか？とよく聞かれる。	
まずは、まち協の刷新から！！ ①65才定年制とか？ ②役員会を World・Café でやる！！ ③朝飯会をやる。 ④年寄り、若者の意見を聞く！！ ⑤昔の青年団的な活動の場を与える	
・若人の集まりが昔にくらべ少ない。 ・生月の職場が増えないか！	昔は若者で旅行に行ったり、バンドやったり好きな事を多くでやった。
若い人の自主性	リーダー不足で発想、熱意、飛び込む力

【産業、雇用】

コレ、必要。	説明
農作業の共同化	トラクターは、一農家に一台必要だが、田植機を共同で買って、共同で田植えすれば、人手も確保でき、作業も早く終る。作業後、風呂あがりのビールが、うまい！
生月でも異業種交流の場が	平戸で夏香ぶりが生まれた様に生月でも生月ならではのマッチングやタイアップで新たな名産品を生み出すことや、大きな発見があるのではないかな？
高齢者介護施設で働く子供連れでも働けるまき網就業の改善。	まき網 定置網の昔ながらのやり方を変えられないか。
仕事(働く)	人が造っても自分で造っても人が集まって来るから。
若者の職場 島の宣伝	
若者の働く場確保(意見を聴き、居場所をつくる)	仕事は見つければいろいろあると思うが、楽しく、ホコリを持ってできる職があれば・・・
仕事の場	生月の若者で、自ら起業するような人が少ないので。行政に頼らずに農業でも漁業でもやろうと思えばやれる。

働く場所がないので農業を増やす	行政参加で事業(大)を生月で行い、若者が働ける様に町おこしをする 最西端の島を世界的にアピールする。動画を交えて御崎、後海(うしろみ)、夕日、日の入り等を紹介する。
視点を変えて起業する	やりたい事を地元で
働く場所の確保	働く場所がないと人も定住しない。
Uターンして来た人の働く場所	都会に出て賃金が高いところで働いた経験がある人にとっては、生月は低賃金で働く場所もない為、帰って来る人が少ない。
企業誘致、婚活イベント	若い人材の流出を防ぐには雇用の場所を増やす事が必要。生月は独身が多く定期的な婚活イベント(年2回ぐらい)を行い、将来的に「少子化」を防ぐことになればと思う。
生月の基幹であった漁業の活性化 後継者の育成	生月の生活の基盤となるものは鯨捕りの昔から漁業によるところが大きい。まき網会社の倒産により多くの若者、家族が県外へ転出し人口も減少した
若者の雇用促進(低賃金)	働く場所があれば帰ってきたいと言う友人がたくさんいる 家賃が高い
◎漁業従事者の確保 ◎農業法人等の設立←雇用の場のために荒れた田畑の利用	Iターン者、眠った労働力の掘り起こし
若い人の働く場が少ない。 漁師になる人が少なくなった 介護施設を作っても給料が少ないのでまちの活性化につながらない。 働く場所が	中野地区は商業施設等があれば生月の人も働きに行けるのでは・・・
雇用の場	帰ってきたいが、働く場所がない(家族と暮らしたいが・・・) 父親が出て行く→家族も出て行く 漁獲制限(マグロなど)の法周知
補助金活用	補助金を使いやすく ・宝くじ ・農作業など ・建設業

【子育て、教育】

コレ、必要。	説明
平戸・田平とは違うことが	平戸や田平と同じ内容では町民は平戸・田平へ移り住んでいる。もっともっと違う魅力的な事をしたほうが良い。 例)・保育料第2子無料 ・高校のバス代無料 など
子ども	シングルマザーに優しい 保育所 結婚・出産支援 ラブホテルを作る！

【保健、医療、福祉】

コレ、必要。	説明
地域で独居高齢者や障がい者を見守る。	地区によって見守りができている、できていないがあるので、全町的に取り組んで見守り体制を作る

【定住・移住、自然環境、生活基盤】

コレ、必要。	説明
定年後の人、若者が、独身(1人)でも入居できるアパートの確保	働き場は、生月にあるが入居できるアパートがない。生月に帰ってきたいが、住む家がないので、帰ってこれない。
町外に出ている人で定年を迎えた人を呼び戻す(年寄の人口増加)	老人のシェアハウスを作り一緒に住める様にする。
若者を増やす(若者の人口増加)	田平地区とか若者が増えている地区とコミュニケーションをとり、原因を調査する。
おせっかいおばさん	婚活をすすめる
最終的には若者増加	若者が増えないことには子供も増えない。それに加え空家も増え世帯数も減ってくると思う。「増やそう生月の人口！！」
住みたい街にすること	海のきれいな町(生月島)の復活！！観光客の受け入れ

若者の集まる場	遊び場がない インストラクター付きのレジャーなど 飲み屋がない マリンピアに居酒屋(フリースペース)
---------	---

【観光、文化、シティプロモーション】

コレ、必要。	説明
地産地消	旅人は地元の物を食べたい。地元でお金を回す。
方言等、地元ならではのアイテムを使ったPR	宮崎県小林市の「てなんど小林プロジェクト」のように、方言を使ったグッズ作成や動画を作成し、SNS等を使って発信、PRを行う。
生月のCM	生月という町のアピールシティプロモーション。 方言をつかったCM、漁師(若い人)や農業の働いている様子のCMなど 何かの方法でCMを作ってアピールしたい。
田舎振興は食にあり	・郷土食を知ってもらう ・特産品の開発 ・一品一家(仲間、地域)
観光地としての意識づくりが	観光地として住民の意識が根付いていない(第一次産業中心のため)。
イベント・行事	今まであった行事が無くなった 理由) 実行委員の減少 日当が欲しい スポーツ合宿の誘致

■大島地区

【地域コミュニティ】

コレ、必要。	説明
地域は地域の人を守っていく事	いざという時はお隣さんの力が一番良いと思うので
島民がお互いに支え合うネットワークづくり。仕事づくり。	まちづくり協議会で島民が不自由、困っていることを事業化し、有償ボランティアで行うシステムづくり。送迎事業。空地、空家整理事業。
まちづくりについて島民の意思統一	何をするにも前向きにリーダーを立てやってみる
こうしたまちづくりの話題を定期的に集まって(実際協議会が発足されているが)語り合う場所が必要	若者から年配の方の話が聞け、大島が盛り上がるので

【産業、雇用】

コレ、必要。	説明
働く場所	島外にいる人が戻ってきやすいように働く場所が必要だと思う。
雇用	若い人達でも島に帰って来たい人もいるが、働く場所がない。
仕事	帰ってきたい人はたくさんいるのに、仕事がないので帰ってこれない!!主に、農家と漁業しかない
若い方が働ける場所。職場	人口減少で先行き不安な為、安心して暮らしていけるようになりたい。
若い人、働きざかりの人が帰っても良いと思えるような仕事。	大島の三大産業である農、漁業や観光業など新しい発想でできないか。耕作放棄地を使ったクリーンエネルギーづくり。レンゲ、ひまわり畑。育てる漁業。クルージング。
食。個々の店はあるが総合的な店舗	食に関しては、日々の生活にかかせない。ほしい物がすぐ手に入る様に総合的な店が必要だと思うが今の個人の店の問題もあるので何かいい策が必要。個人の店の集合体の店づくりとか。
食堂、弁当屋、喫茶店が必要	島外、島民、一人暮らしの為

若い人(男)食堂もしくは(限らず)お弁当屋	大島は店も少なく弁当が売切れてしまう事があり困っているとの事。
運転代行	飲みに行けない!
働ける場所を少しでも考え、市と協力して、空き家を借り、畜産、農業の体験を3カ月とかフォローするなど	都会、他の地区から来た時に何をやっていいのかわからない。そうとうのバックアップが無いと、定着、人口増に繋がらないと思う。
人材バンク	農家、漁家が忙しい時、職を求める人を、人材を求める人へ

【子育て、教育】

コレ、必要。	説明
学童が必要	先生達が来ても子供をあずける所がないので待っている。
元の大島分校(高校)を海洋の研究所にして欲しい	

【保健、医療、福祉】

コレ、必要。	説明
高齢者が動く方向へ	年寄りが若いもんと言わないで、動ける分野で動いてもらうことを考えていく
買物とか病院へ行くのに(老人)車がないのでタクシー代行が必要	一人暮らしの方が多くなってきているので
タクシーが欲しい	・高齢者の方が病院へ行きたい時困る。 ・島外から観光に来てもある一部しか見学できない ・お酒を飲んだ時、代行があると便利。
タクシー	高齢者の移動手段
高齢者の交通手段。(介護)タクシー	高齢者が多い大島地区において、交通手段がない高齢者が多くおられる。移動販売車・往診等にて何とか対応できている反面、ご本人の「自分で行きたい。」「自分で見て選んで買いたい」等の希望が多く聞かれており(介護)タクシーの必要性を強く感じる。
大島丸、的山港、車イス、2台位ほしい	身体障がい者の為。船の乗り降りする時に使用する

船	救急艇、海上タクシー、物資輸送
救急船が必要	専用の船での救急搬送をしないと間に合わないこともある
救急医療体制	特に子供の病気の時など。産婦人科確保
一人暮らしの老人の方の連絡方法	一人ですとシールなど貼ると、防犯上良くない。しかし、一人で買い物にも行けない、家から出られないという状況が多くなってくると思う。どんなアプローチをするか、皆で考えて行かなくては！
独居世帯が多くなって来ている。	見守ってくれる人が必要になってくる。

【定住・移住、自然環境、生活基盤】

コレ、必要。	説明
若い人が住みやすい島にしていく事が大事。仕事や楽しみが自由にできる事が必要。	商工がさびれる事も高齢化率が上がっているのも、若者が島に残らない、外から入って来ないから。
空家の処分	空家を活かすだけでなく、危ない空家は処分したいが、お金もかかるし、方法もわかりにくい。
人口減少のストップ。若者移住生活支援。	この高齢化社会のなかで、大島を引っ張っていくのは結局若者の力だと思う。まちづくりをしていくうえでも若い人達が自ら考え行動実行していくこと。そのためのいろいろな支援が必要だと思う。若者の増加の為に必要なことをこれから考えていくべきだと思います。
婚活	子孫繁栄
県、市道の外灯設置	イノシシ対策としても、子供の通学路、夜道が暗すぎる

【観光、文化、シティプロモーション】

コレ、必要。	説明
昼ごはんを食べる所が必要	島に来るお客さんからいつも聞かれるが無いんですよね〜としか言えない。
喫茶店・軽食できるところが欲しい	仲間とちょっと気軽に集まれる場所がない。また島外から来た人が食べる所がない。

食堂(昼食、お弁当、喫茶店)	大島に観光に来ててもご飯を食べるところがないと困るから。
食堂等が少ない。タクシー代行	観光客が不便している
大島で島ならではの賄い	食事。見せるもの(観光者へ)
情報発信	ブログ等作成。あまりない。
交流	人と人とのコミュニケーション作り
猪のレシピ開発	

■ 田平地区

【地域コミュニティ】

コレ、必要。	説明
真心と情熱を持ったリーダー	どんな組織でもリーダーは存在する。しかし、まちづくりとなると、単なるまちづくりでなく感動と感謝のまちづくり、持続可能なまちづくりを住民に与える真心と情熱を持ったリーダーが必要。
地域、職場内のコミュニケーション拡大	独居老人の増加による地域内の助け合い。
元気	みんなで協力し、元気なまちづくり。
自慢できるものを見つけよう！	「田平は何もなかつちゃんね」は言うてはいけない！おいしい店、景色のいい場所、自信をもって紹介できるものを！
やる気	嫌嫌やっても何もできません。やる気を出して頑張ろう♡
田平といえばコレッ！というものが	田平はとても住みやすく、いい町だが、「田平といえば？」と聞かれると困る。
田平まちづくり計画を基礎にして活性化することにつきます	まちづくり計画は約一年余り議論して作成されたもの。
※総合計画にどう反映させるのか	①立派な町づくり計画ができています

【産業、雇用】

コレ、必要。	説明
ジャパネットコールセンター	コールセンターならどこでもできる。
荒廃農地、放棄農地の有効利用	
居酒屋	田平のことをしっかり語り合う場所。
自動運転の車が	輸送は大事♡
企業	働く場所がない！！
おいしいもの	おいしいものを食べたら幸せになる！！

やる気と元気、決断力	何事もやり続ける為に。
平戸の玄関口を活かす(ためには、)ことが	交通アクセスが良いので企業誘致によい。
働く場が	
働く場所	
田平町公園化で住みよいまちづくり 少子化対策	終の住みかを目指し若者の働く場を確保する。企業ができる応援体制を確立する。労働人口の増加を目指す。
産業振興	耕作放棄地の解消、一坪オーナー制度、特産品の開発と販売ルートの開拓ブランド化を目指す。
田平は平戸の玄関口。 ・田平チックを桜いっぱいにするなど観光客を呼ぶ ・企業を呼ぶ	・若者の仕事の確保 ・高齢者の仕事
身近に職場	・所得の増加が望める ・近くなることで、ゆとりが生まれる ・活気が出る

【子育て、教育】

コレ、必要。	説明
人(男)育て	人柄にホレないと女の方は寄ってこない。
子ども	子どもはなんと言っても未来の田平の宝。ふるさと田平を、愛着心を持った子どもを育てる。これこそが田平の持続可能性を高める！！
子ども	子どもが生き生きしている町は将来像がみえるのでは？子どものためのイベントや事業を増やす。
子どもを育てる環境づくり	・乗合バス、見守り体制 高齢者の活用。

【定住・移住、自然環境、生活基盤】

コレ、必要。	説明
久吹きダムの水利用の将来性について	今は農業用ダムで農業用水として利用しているが、将来は他に利用できるようにすべき！
人口を増やそう	人がいなければ何もできない。
楽しい町に住んでみたい町に	
安い住居が	
住みよい環境	
定住促進対策事業	①住みやすい ②交通アクセス良好西九州道路ができる ③人間性 温厚で優しい人がらが多い ④自然環境が良好 (セコセコしていない) ⑤企業誘致が可能

【観光、文化、シティプロモーション】

コレ、必要。	説明
ユニークさ	どこもやっていないこと、面白いことをやる。名物の踊り、祭りなど。
特産品のブランド化	買う人、作る人→人口増
何かのブランドが	
全町桜の植栽事業の推進事業(100万本植栽)	①観光対策(集客) ②いのししが減る(ひの木、杉、雑木を栽培する) ③歩けば桜の木につきあたるような町づくり

■ 度島地区

【地域コミュニティ】

コレ、必要。	説明
度島から議員を出す。	
今よりも広い集会所	
町長の設立。町長制度にする。	三部落で一人の町長制度へスイッチする。
若い人の協力	これからのまちづくりには必須なこと!!
島民の意識の改革	全員参加のまちづくり

【産業、雇用】

コレ、必要。	説明
農業会社の設立	良い作物を開発して、四季を通して、安定した収入を得られるような事業を興こす。
農業社	
コインランドリーの横にカフェを	大きい物(汚れた)をクリーニングに出せない。
働く場所	若い女性が小遣いでも稼げるように。
第三次産業育成	仕事を作り、人を増やす。
食、住	少しでも収入が出来るよう、食事を行える食堂やカフェがあれば…。島全体を使って、スタンプラリーなどをして各箇所を巡る。(レンタルサイクル…など利用して)など人を呼べるような工夫する。
働く環境作り	人口減少を防ぐには安定した仕事場がほしい!!
食堂、カフェ	島民の要望も大切だけど、島外から来る人の要望にも耳をかたむけるべき。用事で来て、時間をもてあましてみたいなので。その時間をつぶせる場所があれば働く場所＝島民にはありがたい。時間をつぶせる場所＝島外の人にはありがたい。両方にいいことづくし!!

・飲食出来る所があったらいい。いこいの家。・度島に市議が必要だと思う。フェリーを降りた時の景色が悪い。草原。・グループホームの様な施設があったらいい。	
軽食 etc 出来る所が欲しい	自分家でちょっとした接待などの時に必要!

【子育て、教育】

コレ、必要。	説明
人、金、箱	まずは人、次に、雇用、次に場所がある

【保健、医療、福祉】

コレ、必要。	説明
有事の際に交通(海に)の確保	

【定住・移住、自然環境、生活基盤】

コレ、必要。	説明
ふれ愛センターの充実(コンパクトシティ)	
出会いの場。町コン	人口を増やす為に!!
くつろぎの場所	気軽にいつでも入れる場所
平戸市まちづくり全体、主体での街コン	度島、大島、生月等でお互いで街コンをする。平戸全体の街コン組織が出来て、人口増加につなぐ。からの対外から呼び込む。
PM6:00 平戸出港の海上タクシー(月～金)市の助成金で	
平戸に長期で安い駐車場	

第2のふれ愛センター	今のふれ愛センターでは狭い。
・人口増加・皆がいこえる場所・お年寄りも興味などを利用できる、収入できる場所	嫁(ムコ)不足になっているため、呼び込めるよう全体で考えていく。来た人がお金を落とせる環境づくり
お嫁さん	人口増加!

【観光、文化、シティプロモーション】

コレ、必要。	説明
公衆便所必要	旅の人が来島して困る

【行財政運営】

コレ、必要。	説明
行政サービスが他の地区に比較して大巾に少ない。設備もない。	皆分かっているが声がとどかない。
もう少し活動できる助成金	
第3 ふくみ丸又は2~30人乗りの旅客船	緊急時の度島、大島急患輸送手段。使用頻度がかなり高いのでチャーターの便等の強化が急病人を助けることになる。

5 ワークショップ内容のまとめ

【第2回(まちづくり計画未策定地区)】



(1)オリエンテーション

第2回目では、第1回目で出された「まちづくり計画でコレ、必要。」シートをとりまとめた結果から、さらに具体的な内容について検討を行うためのオリエンテーションを行いました。



(2)グループに分かれて「語り合う」

1回目に引き続き、2回目もまずはグループに分かれ、「各地区で取り組んでみたいこと」について、1回目の内容を振り返りながらみんなで“語り合い”を行いました。



(3)“平戸プロジェクトシート”の作成

第1回目に挙げられた分野（地域コミュニティ、産業、観光など）ごとに、語り合った内容を整理し、「平戸プロジェクトシート」に具体的なプロジェクトとして提案していただきました。



(4)“平戸プロジェクトシート”の内容

■平戸北部地区

分野	取り組み名	内容
豊かな顔	みんな大好き HRD!!	人とのつながりを大切にする。平戸の人と人とのつながりを大切にする。あの人がやるならみんなが協力してやれる。あの人が困っていたらみんなであげあえる。みんなが集まってみんなできにかをすることを増やす。地域のつながりを大切に!!昔は田助ハイヤ節とかあった。市民運動会とかみんなが顔なじみになれるようなイベントを!!基本的な取り組みを昔に戻って原点回帰!!商店街に市営住宅をつくって下さい。
地域コミュニティ	人々の交流の場をつくる⇒活性!	世代毎、立場毎等、様々な分野毎の集会の集会・交流会を実施し補助をする。(例)子育て中の母の会、農業者の会等…
教育	漁業に特化した専修学校等の設立	・校舎、教科書等なし・実技で現役漁師と訓練(実習)・地元高校の中に漁業科の設立(平戸高校・猶興館)※専門監の採用
ひとづくり	都会から戻って来たくなるようなまちづくり(人材が育つまちづくり)	・民間や行政をまき込んで、『楽しい』を企画できる中心人物づくり。(年代 30~40 代で!)・自己中、自分中心でなく、全体を見渡し目配りできる人材を育てる。・色んな意味で有名人づくり!(PR も兼ねて!)・『ミス(ミズ?)平戸』的な神輿の復活も良いのでは!?
子育て・教育	楽しく遊んで学び育む”平戸愛”	利用頻度の低い既存の施設を学び場(子どもが楽しく平戸の歴史・文化・習慣等を学ぶスペース)。遊び場(ボルダリングなどのスポーツ、体験実験スペース)に改修。子ども達の学び場・遊び場はママ友の横のつながりを生み、子どもと共に学び、遊ぶ場になる。人とのつながり、地域を学ぶことから、地域愛、平戸愛を育み…つく
子育て・教育	親子で楽しく学べる場所づくり	安心して遊べる場所が欲しい(公園)。屋外ばかりでなく屋内で出来るスポーツ<例>ボンタリング etc。市内(北部)には公園がない。あっても遊具が無いので遊べない。長い期間使用するにあたり管理も徹底して長く使える様にする。保育園・幼稚園とは別のママ友も出来るので楽しくなる様な気がする。基本的に親も子も”笑顔”で過ごせることが良い!!平戸に産婦人科もあった方が良いと思います。相浦・佐世保迄は遠すぎる!!

分野	取り組み名	内容
子育て・教育	子育てが楽しくなるまちづくり	子育て中の人々が安心して集まることができ、子ども達が安全に遊べる(過ごせる)場所(施設)をつくる。例えば…室内体験施設、ボルタリング施設、天文施設等…
子育て・教育		・今の平戸市に必要な職場(産婦人科がないとか)求人情報を集める。又、その職場を作る為には…。・平戸で成功された事例、小・中・学生へ伝え平戸で働ける意識づけをしていく。
平戸環境整備	平戸市クラウドファンディング	市民からやりたい事アイデアを集め、せんこうによって、市報で発表、クラウドファンディングを立ち上げ、全国から資金を集め、(資金のかくとく)成功したらそれを決行、平戸が良くなっていく様子を市報(インターネット)で報告。、市も良くなっていき、宣伝にもなる。
暮らし		・住んでる人達が住みやすい街づくり。の基盤がしっかりしていないと、呼び込む立場に立てない。・学校帰りの子供達が、イノシシを怖がりながら帰っているのが、親も不安。
		学校奉仕作業時のゴミ→個人の敷地へ廃棄(おかしい!!)→市へ相談→アンケートまともただけで回答なし→処分する際の費用は学校側で出せるかと問われた。学校のゴミ(市の所有地のゴミ)を個人の土地へすてるのは問題では??
観光	セレブなおば様方を呼び寄せる	平戸には、良い素材がたくさんあるのでそれをいかした、コース料理。例えば西鉄ブランドホテルのようなフランス料理、イタリア料理、中華料理等。質の高いホテルで、ホテルオークラのような質の高い料理を提供できるようになれば良いと思います。さしみや焼肉はダメです。
観光	観光案内(外国観光客案内問題)	・世界遺産指定後の外国人観光客(主に)増加に対する受入れ態勢について、4ヶ国語解説程度のタブレットを作成し市内各地の商店に無料配布し案内などを市内全域でカバー出来るようにする。・崎方地区を平戸市観光拠点として再整備する。(福岡、北九州)等の客の受入態勢の強化を図る。船での観光が今後主力となりえる。
	観光について	・まず観光客が満足する事は何なのか?・リピーターの重要性が認識された接客がされているか?(食事する場所がない)・ホテル従業員も含めて商店街のサービスが不足!・協調する心が不足している!

分野	取り組み名	内容
観光	住んでいる人も楽しい街づくり	・自分の住んでいる所を観光客(よそから来た人)に案内できるか？自分の住んでいる所を知らないと人に説明できない。・平戸へ来た人が泊まってもらえるようにする事。楽しい場所があれば素通りしないと思う。・商店街の人を巻き込んだ街づくり。
観光	観光について	食事をする所が少なく、土・日曜日には観光客が来ても食堂などが休んでたりするので観光客に食堂など案内が出来ないので食堂、レストランを充実してほしい
観光整備・教育	平戸小学校グラウンド・外トイレ改修	・イベントの時の駐車場・避難場所になっているが、水はけが悪く、雨天時は駐車場として使用できない。・グラウンドにあるトイレは、男女共同、仕切りなし、和式(ポットン)。子ども達も使うし、観光客が使うこともある。・グラウンドの状態が悪く、子ども達がケガをしやすい。・照明なし、野球のバックネットもない。
観光地		・観光客が来た際に魅力がどこにあるのか？リピーターが来ない。宿泊客がない。・複合施設があれば、年齢層の幅が広がるのではないか。雨天時でも遊べる場所。・ターゲットが若くなれば、年寄りを連れて来て宿泊もついでに…となるのでは。・結局、もてなす心、もてなす環境が整っていない。

■平戸中部地区

分野	取り組み名	内容
中部の活性化(住みやすい中部)		①世代別のワールドカフェを開催し意見の集約を行う ②住みやすい中部地区をつくるためにはどうするのか具体的に出していく ③出された提案項目をPDCAで進めていく
手づくりマップを作る		郷土愛を育てる 世代間の交流の場とする 地域の環境を整えることができる
公会堂、ふれあいセンターをオープン化	子供、大人、全ての住人が好きな時好きなことをして過ごせる場所を提供する	世代間の交流、地域の安全性等、人々の好循環ができる場所とする
レクレーション宝さがし	高齢化、少子化現象の中で老若男女が楽しく取り組めるレクレーション	拠点を中心に子供、老人等楽しく話し合いながら散策し、宝を隠しているヒント(マップ)を考えながら地域の名所等を見学しながら宝さがしをすることも地域のコミュニティーになるかも?
	今後の平戸の為に?	<ul style="list-style-type: none"> ・中部地区のマップ作る ・農産物のブランド商品を造り販売 ・空き家の活用 ・人口が増えるような対策が必要(若者への支援) ・青年たちのお見合いを多くすること
薬草栽培の取組	サプリブームに合わせ、国内及び外国等での取組を学び、取り組んでみては	現休耕地の活用と資本投資、少額でブームを起こし起業との特約等も考え取り組むと少し活力が生まれるかも
農業振興	全品目ブランド化	今、平戸ではタマネギ、ジャガイモ等県下でも誇れる品目があるが、それに限らず多くの野菜をブランド「平戸」として販売できるようにする(ブランド化により価格の安定を図る)5年~10年ぐらいで目標をたてる <ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地解消 ・新規就農者の発掘

分野	取り組み名	内容
農業	水耕栽培(インゲン・きゅうり・アスパラ)その他	<ul style="list-style-type: none"> ・水耕栽培にすることによって病害虫の被害を防げる ・肥料等を調整できて思う時思うような管理ができる ・バブル水を使うことによって普通の1.5倍の早さ、大きさを収穫できる ・これを中部地区特産とすることによって地域の活性化を図る ・他の地域が取り組んでいないので差別化ができる <p>食べた人が喜ぶ 安心して食べられる 無農薬である 子供がよろこんで食べる おいしい野菜ができる おいしい！</p>
産業	規格外の農産物を加工して商品化する	<p>普通の市場に出品するには一定の規格品が要求されるが、どの農作物も必ず規格外、きず物が出てくる。これを老人の知恵を活かして昔ながらのものでもいいし、新しいものでもいいので、3～5人程度の老人で加工し、商品化できるものをそれぞれの地区で作る。市場より低価格で提供できれば自分で消費するには十分だと考える。老人は年金があるので小遣い程度になればいいと考えます。3～5人の生きがいになるのではと考えます。</p>
産業	地元農産物のブランド化	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド化による、規模の拡大 ・雇用の増加 ・農地の活用 ・平戸牛
教育	老人による、地区の定期奉仕作業	<p>月に1～2回、1～2時間程度比較的元気老人が集い、草取り、クリーン作業を行う。それを見る子供、青壮年の人達が、老人に対する感謝の気持ちを持つようになる。子供、青壮年は老人に対して「いつも町をきれいにしてくれてありがとうございます」と感謝の気持ちを伝える。老人の生き甲斐にもつながると考えます。</p>

分野	取り組み名	内容
教育、産業	細差マップ歴史探検団(学生、小・中学生)	<p>細差の名所、及び地場産業で特産物を作り、レシピ等の作成、又、特産地を書き入れる。</p> <p>たとえば細差はジャガイモ、タマネギがとても美味しい土地柄ですから、※ポテト、タマネギチップスのような、子供から大人(酒のつまみ)等にも喜ばれるのではと思います。その他、野菜も新鮮ですので直売を拡大して人が多く集まる施設、公園、売店(販売所)歴史館。特産品の作りたてを食べられるレストラン、ワイワイ集まれる施設を！！</p>
自然環境	平戸の自然を活かした公園作り	<ul style="list-style-type: none"> ・大川原のダム付近 ・フォトスポットの増加 ・家族で遊べる公園
観光、もてなし	自然を生かした細差の風景を知ってもらう。田舎にふれあいを	<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者、観光客が美しい自然風景をバックに記念写真を撮るスポットを整備し、ネット等の利用で広報 ・6月10日～20日迄の間、私の家において <ul style="list-style-type: none"> 例、おいしい玉葱ができましたよ 例、おいしいふくれまんじゅうがあるよ 例、可愛いうちの赤ちゃんを見に来てよ <p>とIT(ネット)登録制にて全国、全世界に流して一寸寄ってもらい、田舎に活気とふれあいを常時作り出していく仕組みをつくる。</p> <p>※宿泊はちゃんとした所で</p>
観光	郷土(歴史)のマップ作成	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達を中心に歴史マップを作ることで、お年寄りの方々との交流ができ、我がふるさとの理解と愛着が生まれ、都会に出ても将来帰って来るきっかけになりうるかも？同時に世代間交流によって新たな情報の共有ができ、その新たな情報が、地域活性化につながれば良いのでは？ <p>※意外と自分の住んでいる所の良さに気づかずに居るので、交流を深めていく中で問題解決になったり新しい発想が生まれたりして、賑わいのきっかけ作りになるのでは？</p>
観光レジャー	環境整備をする	<p>中部地区には山も海もあり、自然豊かな環境にあるので、その環境整備をする必要があるのでは？</p> <p>(例)木ヶ津の釣り(イカダ釣り)</p> <p>けっこう釣り客が来ているが、あまり知られていない。CMをして家族づれの集客を図ってみては？</p> <p>(例)上床など九十九島が一望できるのに大木で覆われているため、誰も行かないもったいない！</p>

■平戸南部地区

分野	取り組み名	内容
地域コミュニティー	まちづくりに対する住民意識の向上	1.学びの場についての周知徹底・回覧板だけでなく、地区放送施設の活用・区長→班長→地区住民への伝達の徹底
町民なんなが集まる機会	南部地区大運動会	・南部各地区の、また南部地区全体の結束力UPのため。・いろいろな方と会話できる場・南部地区の一大イベントにする(出店とかも必要、景品も豪華に)・高齢者など移動手段がない方へふれあいバスを推進・出身者(地元から離れた人、子どもたちなど)が戻ってきたいと思えるようなものを見出せるような
コミュニティ&産業	産業別・年齢別のコミュニティ作り	平戸では地域の結束力が希薄化しているように感じている。なので様々な年齢・職業が入り混じった中話し合いや取り組みをにしてもうまくまとまらず、何をしたいのか分からないと思う。なので地区ごとのまちづくり運営協議会とは別に職業や年齢で若い人も意見が出しやすいのではないかなと思う。そうすれば、各職業や年齢ごとの得意分野が発揮されるのではないかなと思う。
産業	南部地区の特産品を作って販売	観光に来てくれる人のための美味しい南部地区の特産品を使っての店などを作った方が良い。働く場所も出来る工夫も必要だと思う。平戸の郷土料理をさがす。農産物や海産物、漁などを使った料理で観光客をひきつけるように出来たら良いと思う。
産業	六次産業の取り組み	平戸の農作物、魚介類を駆使した産業の活性化。具体的には加工施設の誘致、広報活動の民間委託。とにかく六次産業化を進めてほしい!!せっかくの資源を活かすことができるチャンスだと思います!!
企業誘致	第一産業系企業誘致を	・南部地区は第一次産業がメインだと思うので、もっと盛り上げてくれるような企業を。・雇用率UP
産業・雇用	平戸に大企業を誘致しよう!!	特に南部地区に、ビックリするような有名大企業を誘致して雇用の場を確保してみてもどうですか?地元雇用だけでなく、県内外から人員を増やす!!(人が増える街も豊かになると思います)
子育て・教育	有名進学校誘致	小規模・豊かな自然を売りにして、進学校を誘致・新設してみても?外に勉強させに出すのではなく、平戸に呼び込む!!

分野	取り組み名	内容
福祉	町の再編(コミュニティ)	海の近く(集合住宅)移住 ↑ ↓ 山の近く(集合住宅)移住 ↑ ↓ 市(集合住宅)移住
福祉・子育て		交流会館にて、市議会中継・大相撲取り組み放送・高校野球中継を見ながら、マーじゃん・囲碁・将棋など
福祉	シェアハウス建設プロジェクト	シェアハウス(老人用)、ハードは市でお願いします。+公民館のような場所、畑、[元気な老人の町にする]、南部地区にまとめて、廃校になった所に!!廃校利用も考えられる!!
高齢者対策	コミュニティバスの運行	自宅より病院、買い物等(敷佐・猪渡谷・堤・早福・船木等の入り込んだ地区)、志々伎地区は大変喜ばれている。
保健・医療・福祉	健診・OP力向上(整形外科医の確保)	県外の病院に紹介されるのではなく、平戸市民病院に、逆に来てもらえるよう、いろんな技術力、運営力を上げていく。わざわざ遠くへ行かなくても、地元で、ちゃんと見てもらえるようにして欲しいです。
生活・地域	空き家活用プロジェクト	津吉の通りに空き家が増えているので、そこを改修して、将棋や囲碁ができる空間をつくる。そこでは子供から高齢者が気軽に寄り、そこでコミュニティ(地域のつながり)が作りあげられる。
定住	跡取り育成(支援)プロジェクト	家督をついでいく支援・仕事のあっせん・固定資産税の減税・住宅改修費の助成
観光	空き家の活用	1.宿泊施設として活用 2.滞在型の観光の拠点・早福 つり・中津良まんじゅう・津吉 たまねぎ・宮の浦 つり、ひもの・志々伎 志々伎山
観光		1.南部の観光と売りこみ 2.クルージング 港、港に寄りながら
市外・市内対象		平戸島 周遊、各港で散策、2泊3日の旅など、ハウステンボスを参考に海を使用したのアトラクション
佐志岳トレッキング	佐志岳トレッキングツアー	・比較的登りやすい佐志岳を南部の観光の目玉とする。・空家の一つを佐志岳カフェとする。

分野	取り組み名	内容
魅力のまち作り	津吉 33ヶ所巡り(パワースポット巡り)・空家の再生	・多くの空家の中から 1.2ヶ所選んで常に使える(ダレでも)映画館・美術館・写真館・遊べる館・勉強館・カフェに再生・年に一回行われているパワースポット巡りを年 4 回開催し神社仏閣を主にして 33ヶ所選定し、その中に旧古田の町通りを入れて、空家再生コースも入れる。花で幸せの町と銘打って各家の前に花の植栽をしてもらう。
観光・航路	平戸一周クルージング	・他県からのお客様を平戸→津吉→志々伎→宮の浦と順に回って、その地区ごとの特産品を見てもらったり、購入してもらったりして、名所等も巡ってもらう旅行??を企画したい!!・ついでに何か体験させてはどうか??・ネットでPR!!
観光	観光ルート	福岡→平戸→宮の浦→教会郡五島→佐世保ハウステンボス→長崎、船(定期的)、旅行業者に旅行ルートを作っていただき。
観光・文化・シティプロモーション	奥平戸トレイル、マラソン大会	佐志岳・志々伎山のPRの為、トレイルコースを作って大会をする。その他奥平戸の「登山と花」のPR。大自然の中をフルマラソンする。コース:(スタート)宮の浦～志々伎～前津吉～津吉～(ゴール)

「第2次平戸市総合計画策定に向けたワークショップ」

「みんなで語ろう！平戸のまちづくり」

実施報告書

平成 29 年 8 月

長崎県 平戸市
